

27 医療 ☆ 2014年(平成26年)7月15日(火曜日)

つなごう医療

229

中部の最前線

腎臓病患者の栄養の管理、指導に長年、携わってきた。自身が指導する臨床栄養学研究室からは、全国的な透析患者向けレシピコシテストの入選者を、毎年のように輩出している。「栄養バランスはもちろ

医人伝

ん、おいしさ、治療で疲れた患者さんが手軽に作れるかなど、いろいろな要素が求められる。学生たちには真剣に料理を考えるいい機会」と、コンテストの参加を促す意図を明かす。

静岡県袋井市出身。料理好きで栄養士を目指した。

至学館大健康科学部 (愛知県大府市)

教授 井上 啓子さん (57)



栄養・食事療法の項目を執筆した腎臓病のテキストを手に、管理栄養士の役割を話す井上啓子さん

善させる健康的な食事の提案や、食材の選び方の指導に知恵を絞った。患者から多くのことを学んだ。患者にはさまざまな生活があり、食の好みも違う。理論の押しつけではなく、生活の質を落とさないように無理なく、病状を改

腎臓病食の改善を指導

した献立や栄養ケア計画を立てさせ、実践的な技術も熱心に伝える。東海地方の腎疾患分野で活躍する管理栄養士の会「東海腎臓病栄養食事研究会」の会長、日本栄養士会などが認定する「在宅訪問管理栄養士」の運営委員長も務める。在宅訪問管理栄養士は、在宅の患者を訪問し、栄養や食事の指導をする管理栄養士の認定制度だ。「在宅療養者が増える中で管理栄養士も、これまで以上に在宅の現場にも出ていかないと」と話す。食事を通じて健康寿命を延ばし、終末期になっても食を楽しむ。医療現場の経験から、管理栄養士なら大いに貢献できると信じている。(佐橋大)